

ロリエルフのお姫様は主様が大ちゅき♪  
あまあま搾精性活♪

リーフィ 「……もし、もし……主様、主様……」

リーフィ 「なかなかお目覚めになられませんね。私が見つけた時にはもう大分お疲れのようでしたし、仕方ないのでしょうか……」

リーフィ 「あ、お気づきになられましたか？ 主様つゝ」

リーフィ 「うう、いきなり初対面の私に話しかけられては混乱してしまいますよね」

リーフィ 「まずは自己紹介をさせてください。私はこのエルフの里の統治者、姫を任せているリーフィ・リ・ヴィアと申します。長いですから、どうか親しみを込めてリフィーとお呼びください♪」

リーフィ 「主様がこのエルフの森で一人行き倒れていた所を偶然発見し、私の城までお連れしたんです。覚えていらっしゃいませんか？」

リーフィ 「はい、そうです。ここはエルフの隠れ里。本来であれば立ち入りを許された者しかたどり着けない、特別な場所です」

リーフィ 「しかし、ある特別な人間のみ、このエルフの隠れ里にたどり着けるのです」

リーフィ 「そう……その特別な人間とは、私たちエルフ族を孕ませられるおちんぽを持った人間……それが主様なのです」

リーフィ 「元々エルフというのは長命の代わりに繁殖力の低い種族でして……」

リーフィ 「エルフの男性は種無しも多く、しかし性欲旺盛な人間に子種をいただいても種族の違いからか、中々孕めるエルフはいませんでした」

リーフィ 「ただ、稀に種族の垣根を越えて、どんなメスでも孕ませられる伝説のおちんぽを持つ人間が現れ、まるで運命に導かれるかのようにこのエルフの里に迷い込み一族を救う……そういった言い伝えをおばあ様から聞かされてきました」

リーフィ 「正直おとぎ話の類だと思っていたのですが……こうやつて主様を目の前にすると、ああ♪『のお方こそ、私たちメスエルフを孕ませてくれる救世主様なんだと、確信しました』

リーフィ 「あなた様はいわば、エルフ族の未来を担う、私たちのご主人様なんです。だからこそ、親愛と敬意、そして服従の意味を込めて、主様と呼ばせていただいてます」

リーフィ 「ですから、あの、えつとですね……」

リーフィ 「どうか、私たちエルフ族を救う為に、私の事を孕ませていただけませんか?」

リーフィ 「うう、うう……まだ田を覚まして間もないのに、こんな突拍子もないお話をしてしまい申し訳「」せじません」

リーフィ 「そうですね……主様も混乱していらっしゃるでしょうし……」」は少しでも早く元気になつていただくためにも、私が癒しの「」奉仕をして差し上げますね♪」

リーフィ 「孕ませていただく……そのう……つ、つまり……せ、セックしゅ……し、してもう前に、まずはお互いの事を知らなきやダメですから……♪」

リーフィ 「主様♪ 私……リフィーの事を、いっぱい感じて、知つてください♪」

◆トランク2

リーフィ 「主様♪ 早速ですが、お召し物を脱いでベッドに仰向けて横たわってください♪」

リーフィ 「えへへ♪ ありがとうございます。 つて、主様のお身体、とっても凄いですね」

リーフィ 「筋肉質で硬くて、逞しくて……エルフの男性は皆ひょろひょろでやせ細っていますから、主様のお体……メスとオスの違いを見せつけられるようで……とっても魅力的ですね♪」

リーフィ

「はあ、はあ……ん♪ な、なんだか、こんなに  
かっこいいお姿を見せつけられると、体が熱くな  
って、興奮してちゃいましたあ♪」

リーフィ

「ん、んん♪ ああ♪ はあ、はあ♪ ん、やあ  
♪ ダメですう♪ おまん♪」から、もうお汁が漏  
れ始めて……す、すみません主様。こんなはした  
ない口りおまん♪」どう……うう……恥ずかしいで  
すう……♪」

リーフィ

「こんなちっちゃくて幼くて、それでいてすぐ発情  
してお漏らしちゃうようなロリエルフ……嫌い  
になっちゃいましたか♪」

リーフィ

「ふえ? あ、あつ♪ あ、あつ♪ あ、あつ♪  
そんなあ♪ とっても可愛くて素敵だなんて♪  
え、えへへへ♪ 主様あ♪ ありがとう♪」  
すう♪ 嬉しくて嬉しくて♪ んにやああ♪ 生  
まれて初めて」の幼い体に感謝しちゃいましたあ  
♪」

リーフィ

「主様♪♪ 主様主様主様主様あ♪♪♪♪ ん♪  
うううえいいつ……」

リーフィ

「えへへへ♪ 主様♪♪ 好きです♪ 大好きで  
す♪ こんなに男性に対して好意を抱いたことは  
ありません! これが恋というもののなのでしょう  
か? それなら、私の初恋は主様ですね♪」

リーフィ 「主様～♪ 主様主様～♪ ふふ♪ 主様？ 私の事、ぎゅって抱きしめてください～♪」

リーフィ 「はう～♪ 主様のお胸に抱き寄せられて…… とっても温かいです～♪ んん♪ すりすり～♪ すりすり～♪」

リーフィ 「どうですか？ 主様？ 癒されてくれますで しょうか？ 私たち、特に王族の血をひく私の肌は、触れている対象に対し癒しを与える効果があるんですね♪」

リーフィ 「エルフの内から溢れるマナが主様にいきわたつて る……まあそんな感じで、私に触れてるだけで傷も癒えちゃうんですよ♪」

リーフィ 「ですから、こうやってもひどぎゅつとして、いつぱい癒やしてあげますね♪」

リーフィ 「んん♪ すりすり～♪ すりすり～♪ すりすり～♪ すりすり～♪」

リーフィ 「つて、あ、きやん！？ あ、主様？ あのう…… そのう……何だか、下の方から固い、変な感触がするのですが……」

リーフィ 「も、もしかして、抱き合つてるだけで、主様のお ちんぽ、勃起されたのですか？」

リーフィ

「わあ♪ 私のちつちやな体で」んなに早く勃起してくださるなんて♪ あううう♪ 主様♪ 嬉しいです♪」

リーフィ

「主様あ♪ どうか、」かかを向いてください  
はい、私の顔を見つめて……」

リーフィ

「んぐっちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ ちゅぱ♪……ん、  
ちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪ はあ♪ 私のファーストキス……ヘルツのお姫様キス、あげちゃいましたあ♪」

リーフィ

「ひとつも抜くひ、美味しいくて♪ もひとつキスした  
いです、主様♪ ん、ちゅ♪ ちゅぱ♪ ちゅ……ちゅ  
……ちゅ♪ んちゅ♪ ちゅ♪ れる♪ んちゅ  
♪ ちゅ、ちゅ♪」

リーフィ

「主様……あのう、もひとつ激しいキス……大人のキ  
スをしてみていいですか?」

リーフィ

「交わる男女は、孕ませエッチをする前にお互いの  
涎を交換し合い、気分を高め孕みやすくすると書  
物には書いてありましたし……」

リーフィ

「何より、主様ともひとつ深くキスしたいんですけど  
ダメ、ですか?」

リーフィ

「ふえ？ あ、主様、んむうー？ んちゅ～、じゅ  
ふつ！ んふつ！ じゅる～、んちゅ～、ちゅ：  
…じゅるる～、んふつ！ れう～、んれう～  
れれれれ～、んちゅ～、ちゅ、じゅふふつ！ ん  
ちゅ～、ちゅ～」

リーフィ

「んああ～、主様あ～、もつろお～、ちゅ～、ちゅ  
ふつ！ んちゅ～、れれれれ～、じゅるる～、  
じゅふつ！ んふつ！ れう～、れれれれ～、れ  
るお～、ちゅ～、じゅる～、じゅるるるる～、  
～、ちゅぱあ～、はあ、はあ～」

リーフィ

「主様あ～、好きです～、大好きです～、愛してま  
すう～、はああ～、ん、ちゅ～、えへへ～、ス  
キ～、すきすきい～～、愛してますう～  
～」

リーフィ

「も～とキス……主様のじろんな所にいっぱいキス  
して、マーキングしてあげます～」

リーフィ

「ですので～、唇の次は～……」～～～、主様  
のお耳に、キス～、してあげますね～」

リーフィ  
リーフィ  
リーフィ  
リーフィ

「主様あ……んん～、んひ、ちゅ～、んぢゅ～……  
ちゅ～、んぢゅ～、んぢゅ～……ひゅ～、れれるれ～……  
ちゅ～、ちゅ～」

「んじゅ～、ちゅ～、ちゅ～……じゅるる～……  
ふああ～、はあん～……」

リーフィ

リーフィ

「んちゅ～ ふちゅ～ じゅ～～～ れ～～～ れ  
ろれろれろれろお～ んちゅ～ ちゅ、ちゅ～う  
～～～ ちゅ～ んちゅ～ じゅ～ れれれ  
ろお～ れれれれれれれお～ んちゅ～  
ちゅ、ちゅ～」

「せりやん 耳舐めただけで、顔がどつても熱くなつてしまふ。」んなの、ますます興奮しちやいますよおふ」

「もうおら、お耳に沢三がおいらのことを  
ぐだぐだ」

「んわわわ わわ……わわわ わわわわ、わわ、  
じゅるるわ れへへへ れわわわわ れわわわわ  
わわわわへ んわわわ わわ、わわわ、じゅるる  
わへ んわわわ れわわわわ」

「わいわい、ちゅ、じゅるる、れへへ、  
わい、私の唾液へ、わい、流し込んであげ  
ますね、んちゅ、ちゅぱーー、ちゅ、じゅる  
る、れへへへ、れろれろれろれろれろへへへ  
へ、わい、れろれろお、じゅるるるるる」

リーフィ

「ん~、れる~、れろる、じゅあく、ちゅるる...  
...じゅ~、ちゅ~、ひいひ~、あ~、  
は~、はあ~、」

リーフィ

「ちゅ~、ちゅ~、ぱ~、~、あ~、れ~、  
...ちゅ~、ぱ~、く~、ちゅ~、~、あ~、れ~、  
る~、ちゅ~、は~、む~、ちゅ~、ちゅ~、  
は~、ぱ~、」

リーフィ

「ん~、~、あ~、~、じゅ~、~、  
...ん~、~、お~、ひ~、~、庄様のお耳~、  
れ~、~、れ~、れ~、~、あ~、~、  
...ん~、~、れ~、~、~、あ~、~、

リーフィ

「ん~、~、あ~、~、れ~、~、  
れ~、~、く~、~、~、~、  
ち~、~、れ~、~、れ~、~、~、  
...ち~、~、~、~、~、  
り~、~、~、~、~、

リーフィ

「は~、~、~、~、  
し~、~、~、~、~、  
ん~、~、~、~、  
...~、~、~、  
ち~、~、

「~、~、~、~、~、

リーフィ

「んん……ちゅう……ちゅうふう、んうちゅうふ、れ  
る、ちゅうふ……れろれろ……れ、んちゅう、  
ちゅうふ……れろれろれろ……ちゅうううう……  
んちゅうふ……ふはあふ、はあ、あううふ。」

リーフィ

「えくくふ、主様つたらあふ、「んなにお耳を  
真つ赤にされて、私のお耳」」奉仕、気に入つて  
いただけたのですね？ 頑張つたかいがありまし  
た♪」

リーフィ  
リーフィ  
リーフィ

「では、今度は反対のお耳にも耳舐めして差し上げ  
ますので少し移動しますね？」

リーフィ  
リーフィ  
リーフィ  
リーフィ  
リーフィ  
リーフィ

「それでは、「わらも……はむりふ、ちゅう、ちゅ  
ふくちゅうつふ、ちゅう、ちゅうううう……れろれ  
る……ちゅう、れちゅう……れろれろ……ん  
ちゅうふ、ちゅう、ちゅうふ。」

「くちゅう……れるふ、くちゅうびちゅう……  
ちゅう……んちゅう……れるふ……れろれろ……  
ん……ちゅう……ちゅうばつ……ふつ……れるふ……  
くちゅ……」

リーフィ  
リーフィ  
リーフィ  
リーフィ  
リーフィ  
リーフィ

「んちゅう、れふふ、れろれろおふ、じゅふ  
じゅふふふ！ んちゅう、ちゅ、れふふふ、ん  
ちゅう、じゅうせふ、じゅるるるふ、れろれろ  
ろれろふ。」

リーフィ

「ん、ちゅふ、ん、んんふ、私、エルフのお姫様なのにじふ、ちゅ、れろれろ……はしたなく唾液を垂らしながらあふ、ん、ちゅ、ちゅふ、れろれろしゃやつてえふ、んんふ、恥ずかしくて恥ずかしくておかしくなりやつですう」

リーフィ 「でも止められない……体が主様を求めて、ペロペロしたくて勝手に動いちやうんです……ふ。」

リーフィ 「はふ、ちゅつ……んちゅ、ちゅふ、くちゅひちゅ……れろれろ、んちゅ、ちゅふつ、ぶちゅ、れる……じゅるる、じゅぱぱぱつ……れりゅれりゅ、んちゅ、ちゅ、ちゅふ」

リーフィ 「ちゅつ……ちゅつ……はむ、れる……ちゅつ……ちゅふくちゅつ……ちゅつ……ちゅつ、れろ……れろれる……ちゅつ、はむつ……ちゅつ、ちゅつ……は……ぶちゅつ……」

リーフィ 「んつ、しゅふ……ふ、くちゅつ……ちゅつ、じゅるつ、ちゅつ……んちゅつ……れろつ……れろれろつ……んつ、ちゅつ……好きですうふ、主様あふ、ちゅふ、れろれろおふ、れりゅふ、んちゅふじゅ、じゅぱふ……ちゅふ……ん、んんふちゅつ……んつ……れろつ……れろつ……」

リーフィ

「んつ……もつろ……んつ、ちゅつ……くちゅつ……じゅるつ……んちゅつ……ちゅぱつ……はあ……はあ……激しくてあざまふね……」

リーフィ

「んひちゅ、ちゅぱー、んんー、れろ、れろれ  
ろ……ん~ちゅー、じゅうじゅう……ちゅぱ  
ぱー、んじゅー、れるれる……ぐちゅ、ひちゅ…  
… ふああ……んちゅー……れろれろ……」

リーフィ

「じゅぱー、ちゅぱー、ん、んん！ じゅるる  
♪ じゅるるるるーー！ ちゅ、んちゅうう♪  
ちゅ♪ れーーー♪ れるれるれるれる♪ れろ  
れろれろれろれろれろれろれろれろお♪」

リーフィ

「ぱぱーー、んちゅーーーれろー、ちゅー、ちゅー  
♪ じゅるー、じゅりゅりゅーーーちゅううーー  
…んちゅー♪ れるー、んちゅー♪ ちゅぱー  
ちゅ♪」

リーフィ

「んー、んんー、ぱぱーーはあ、はあ……は  
ふう……ん~ちゅー♪ えぐく、かよつと我を忘  
れて夢中になつてしまふました。申し訳ありません  
ん」

リーフィ

「うー、せやん♪ やあ♪ イ様つたらあ♪ ダメ  
ですよお♪ そんな、勃起おちんぽをおまんこに  
擦りつけでは……ん、あん♪ まだ、おまんこに  
入れるのは、んん♪ 少し早いですからあ……  
♪」

リーフィ

「つひ、はうう！ あ、主様？ そ、そんな、おまんこの入口でおちんぽ扱かれて……んやああ！ あ、あんふ、主様あふ！」これえふらぬですよおふこんな、交尾みたいに、おちんぽ擦りつけちゃ……ん、はううう！？」

リーフィ  
「ん、んん！ も、もう！ 主様つたら！ ん、あんふ、私の発情おまん汁をローションにして素股だなんてえ……ん、やあふ ハツチすぎますうふん、あ、あ、ああふ」

リーフィ  
「むうう！ そんな意地悪な主様には、私も耳舐めでお返しして差し上げます！」

リーフィ  
「はむうつ……んちゅふ、ちゅふつ……ん、んん！ れろれろれろれろおふ、れううろれろれろれろおふ、んじゅつ！ ジゅふふつ！ ジゅるるるううふ、じゅふふつ！ んふつ……ちゅ、ちゅ、ちゅう、ちゅううふ」

リーフィ

「んふうつ！ れろれろおふ、ん、んんふんあつ！ あ、んあああふ、あうんふ、あ、主さまあふ、せめてえふ、もう少し加減をおふ、んあふ、あ、あ、あ、あああふ、はひゅうふ、ん、んちゅふ、ちゅふつ！ れううふ、れろれろおふれろれろれろふ」

リーフィ

「わせへ じせんへ… わせんへ… れれれれへ  
ん、わせへ くわせへ じせんねへ じせん  
りせんせへ れへへへへへるれれれおへ ん  
わせへ わせへ わせへ」

「おまえ」にじゅ、主様のおちんぽおへ、先っぽの  
段差が擦れていへ、あうあうううへ、クリが引っ  
かかって気持ちよすぎますよおおへ、ん、ひやう  
んへ、あ、あ、あ、あああへ、「

「ううう！ ん、んん♪ こんな暴れん坊なおちん  
ぽはあ♪ 私のふにふに太ももで挟んでえ♪ ん  
～えい！ ふにふに～♪ ん、あ、あん♪  
やあ♪ おちんぽのビクビクが伝わってきし♪」

「感じてくれるんですね？」ロリエルフの幼い太ももで、おちんぽひゅつひゅしそうになつてゐるんですね？」「

リーフィ

「はああ～ はい～ どうや?」のまま、私のおまんこと太ももに挟まれて気持ちよくひゅっひゅしてぐださ～」

リーフィ

「私も、んん♪一生懸命、主様がイけるようにサポートいたしました♪ ん、しょ、ん、しょ♪」

リーフィ

「はあむ♪ ん、ん♪ ちゅ♪ れへへ♪ れろ  
ろれろれろお♪ んちゅ♪ じゅ♪ ！ ジゅる  
る♪ ちゅ、ちゅ♪ ふくちゅ♪ れへへ♪ れろれ  
ろれろれろお♪ じゅるる♪ じゅ♪ ふ♪ ！」

リーフィ

「あう、んああ！ あ、ああ♪ おまん♪ からあ♪  
どんどんおまん♪ ローション垂れ流れてえ♪  
んああ♪ おまん♪ ね♪ おまん♪ 気持ちいで  
すう♪ 主様あ♪ おまん♪ もう♪ お♪ 気持  
ちよ♪ う♪ ん、ん♪」

リーフィ

「は♪ い、れ♪ い、じゅ♪ じゅる♪ へす、へ  
すう♪ じゅる♪ じゅ♪ ひ♪ ひ♪ ひ♪ ひ♪ ひ♪  
ひ♪ ！」

リーフィ

「んん♪ しゅき♪ しゅき♪ しゅき♪ ありゅ  
じしゃあ♪ れへへ♪ ちゅ♪ へれれ  
ろれろ♪ れれれれれれれお、ちゅ♪ ん  
ちゅ♪ じゅる♪ ちゅ♪ ちゅぱ♪ は  
はあ♪ せあ♪」

リーフィ

「あむ、れる♪ へふうん♪ 好き♪ 好きで  
す♪ 、主様♪ ！ 田覗た時から♪ 大好きに  
なつてえ♪」

リーフィ

「ずっと前から、」「うなだれたよ」な氣まで  
して、んちゅ、れろれろ、じゅぶり…ん  
くちゅ、お、ちゅ、愛しだが、んつ！  
ああん、もひ止まらないなう…」

リーフィ

「もひうお…ん、れるひ、くちゅぱひゅつ…  
ちゅつ…んちゅつ…れろひ…れろれろひ…  
…んへちゅつ…ちゅぱひ…ひ…れるひ…  
…くちゅ…」

リーフィ

「んじゅつ、ちゅつ、ぢゅひりひ…れるひ、  
ちゅるひ、んじゅひりひ…ひ、ちゅつ、ちゅ、  
んく、好き、好き…」

リーフィ

「あむひ、くちゅつ…れるひ、くちゅぱひゅつ…  
…ちゅつ…んちゅつ…れろひ…れろれ  
れ…んへ…んへちゅつ…ちゅぱひ…ひ…れ  
るひ…くちゅ…」

リーフィ

「はあ、ん、んああ、耳舐めしてる間に…  
お、おおおおおお、主様の我慢汁とお、私のト  
ロトロおおんじ汁が混じって…ん、やあん、  
濃厚なえろえろジユースが出来ちゃつてます  
♪」

リーフィ

「はあ、はあ、」のねめんジユースを、全部お  
ちんぱにまぶしながらあ

リーフィ

「もひと激しくねちゅぱひ…」とおせますね、

リーフィ

「んっ、やっ、あっ、あん！　くふっ、くうう  
んっ！　んあ♪　やっ！　」、「れ！　滑り良  
くつて♪　ん、あ、ああん♪　やつぎよりおまん  
こ擦れてえ♪　クリ立つちやつてえ♪　ん、ん  
ん！　やっ！　あ、あ、あ、ああ♪」

リーフィ  
「はあ、はあ！　あ、ああ♪　主様あ♪　ん、あ、  
ああ♪　主様ああ！！　も、もうこれ以上は、  
ん、んにやああ！　わ、私も、我慢できません！  
ん、んん！」

リーフィ  
「欲しい、欲しいです！　主様のエッチなミル  
クう！　子供を孕んじやうおちんぽミルクう！  
神聖なお子種ミルクう！！　ん、んああ♪　出  
してええ！　出してください！　主様あ  
あ！！」

リーフィ  
「私の柔らかい太ももと、えっちなとろとろジュー  
スでシコシコされてえ♪　濃厚ザーメン私の身体  
の好きなところおつ……ビ！」に出してもいいです  
から！　いっぱい射精してください！」

リーフィ  
「ひあっ！　あああっ！　おまんこイキましゅ！  
おまんこイッひやいましゅうううう！　ん  
おおお！　お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
おほおおお♪　頭おかくなりゅうう！　頭あ！  
おかひくなっひやいましゅうううう！　」

リーフイ

「んほおお！ おほつ、んつ、おつー、くわくわく  
んひつ、ひいいんつー、躊躇つ、止まりなつ、  
あつ、あつ、あつー、んああああああつー。」

リーフィ

「イグうううう！　んああああ！！　あ、あ、あ、  
あああ！　イグウ！！　イグイグイグイグイグイ  
グイグイグ！！　イつぐうううううううううう  
うううううう！！」

リーフィ

リーフィ

「お、お、お、つ、お、一、つ！ 精液浴びてイグうう  
ツ！ 」 んなの無理れすう！ つがいのせーべき  
あひるのよしゅぎでしゅううつ、んくうづつー・

リーフィ

「んおおおお♪ お、お、お、お、お、お♪ おまん  
♪ おお♪ おまん♪」も潮吹いていつてしましょうう  
♪ 姫なのにい♪ ハルフのお姫様なのにい♪  
んほおお♪ 下品な声出していつてしましょうう  
♪ ん、んん♪ お、お、お、♪ 気持ちいい  
のおおおお♪

リーフィ

「んおり、おり、お、お、おおお♪ うぐ、う、く  
ううううはううう……まだ、まだ出でる♪…  
身体に、かかって……あひつ、ひつ、ひぐうう、  
んくう……！」

リーフィ

「ふーつ……ふーつ……はあ、あつ……はあ…  
ん、はあ、はあ……身体に、出してもうつただ  
け、で……こんなに興奮していまうなんて」「

リーフィ  
リーフィ  
リーフィ  
リーフィ

「この勃起おちんぽが私のキツキツおまんこに入れ  
てしまつたらと考えると、興奮しすぎてどうにか  
なつてしまります♪♪」

「主様ももつすつかりお元気になられたみたいで  
し、」のまま本番セックス、しましちゃうね♪

◆トランク3

リーフィ  
リーフィ  
リーフィ  
リーフィ

「主様はそのまま寝ててください。私を孕ませる為  
にエッチをするんですから、私が上で動いて気持  
ちよくしてあげる……それが当然の形だと思いま  
すので」「

「ん、しょ……はああ♪ 先ほどは太ももに挟んで  
たので見えませんでしたが、主様のおちんぽ、  
こんなにおつきくて厭らしくて♪ それにエッチ  
な匂いがブンブンして……♪」

リーフィ

「すん♪ すんすん♪ すううううはあううう  
♪ あうあうあう♪ おちんぽミルクの香りい  
♪ んん♪ やあ♪ 」の匂いだけでおまんこが  
発情して、おちんぽ欲しいよお♪ って、下品に  
オネダリしかやつてます♪」

リーフィ 「ふえ？ すう♪ じやらしい顔になつてるつて、  
いりり……仕方ないじやないですか」

リーフィ 「大好きな主様に孕ませてもらえるんですよ？ そ  
んなの……発情して、じやらしくもなりますよお  
♪」

リーフィ 「主様あ♪ ざうか、」のドスケベロリエルフの初  
物おまんこに、主様の逞しいおちんぽを入れて、  
つがいとしての証を刻んでください！」

リーフィ 「はい！ それでは、おちんぽ、おまんこに入れま  
すね？ ……んつ！ くふつ、んくつ……  
くうううう、はひいんひ！」

リーフィ 「主様のおちんぽが、私のキツキツおまんこを広げ  
ていつていますう……あつ、ああ！ 下品に愛液  
を垂らしたオネダリおまんこにい♪ おちんぽ迎  
え入れようとしてますう！ ひやつ、あんつ！」

リーフィ 「んあ、あ、あ、あああ♪ 来ます♪ 入ります♪  
おちんぽお♪ 私のおまんこにい♪ つじにい  
♪ 主様あ♪ 私のお♪ リフィーの1度つきり  
の初めて♪ 」堪能ください♪」

「んひやつ……はつ……はひつ！ お、お、お、お、お、  
お、お、ふ、お、お、お、ふつふ、ふう、ふう、は  
ふつ！ はあ、はあ、はつ……くふううう、  
んつ、んつ……お、お、ぢんぽお、入りましたあ  
♪ 私の一一番奥まで……赤ちゃんのお部屋までえ  
♪ はあ、はあ……ん、あ、はあ、ふうう……

「やつ、さつ……主様のおちんぽおゝ 大きすぎま  
しゅうう……へ お馬さんみたいな勃起おちん  
ぽおゝ もう子宮まで届いてるのにいゝ おちん  
ぽまだおまんこからはみ出しますうへ」

「んう、くう……も、申し訳ありません。私の小さすぎる雑魚雑魚まんこのせいで、主様のモノを全て受け入れることが出来ず……」

「うへ、ふえ？ やつ！ あ、ん、やあ！ あ、主  
様あ♪ やあん♪ またお腹の中で大きくう♪  
ちつちやな口りまんこを串刺しにするのがそんな  
に興奮するんですか？」

リーフィ  
「はう、またく、主様ったら、本当に変  
態さんなんですね」

「主様は所謂ロリコン、という方なのでしょうか？  
えくく♪ もしゃうであつたなら尚更嬉しく  
なつかやいます♪」

リーフィ 「きつと私の体がいつまで経つても大きくならないのは、主様に氣に入つていただく為だったのをしようね♪」

リーフィ 「ん、では、主様の大好きなロリおまんこで、いつぱいぴょんぴょんしておちんぽ気持ちよくしてあげます♪ メスエルフのおまんこダンス♪ 楽しんどくださいね♪」

リーフィ 「あつ、んふつ……！ はつ、はつ……んあ♪ あ、や、お、おおおおおお♪ 動く度に、ん、んん！ 奥当たりますう♪ んいつ、あつ、あつ、ひやつ、くうんつ！」

リーフィ 「んひやつ！ んつ、んんつ！ あ、ああん♪ やつ！ ん！ ビ、ビうですか？ ロリエルフの、おちんぽ搾りつ！ ん、あ、あ、ああ♪ き、気持ちいい、ですか？」

リーフィ 「え、えへへ♪ はあ、ん、あ、あん♪ 言葉になくとも、主様の顔を見れば分かつちやいますね♪ 嬉しいです♪」

リーフィ 「んつ、はあ、ああつ！ 私も気持ちいいです！ あ、あ、あ、ああん♪ やあ♪ 初めてだったのに、んん♪ もつすつかり感じて、おちんぽ欲しがつてて♪」

リーフィ

「はあ、はあ……ん、仮にも姫なのに……子種を授かるために」「うしてまぐわつてるはずなのに……」

「……」

リーフィ 「おまんこ気持ちよくなつて、主様の上で下品にぴょんぴょん跳ねてしまつておりますうつ！」

リーフィ 「んあ♪ あつ、あつ、あつ、ああつ！ はつ、はつ……くひつ、んつ……くううつ、はつ、あつ……」れ、好きつ、奥に、ズンズンうてえ！」

リーフィ 「主様のおちんぽでお腹の一番奥つ！ 子種を宿す大事な子宮を叩かれるの気持ちいい♪ これ癖になる！ 癖になつちやじますう！」

リーフィ 「んあああ♪ やつ！ あ、あ、あ、あああ♪ おまんこお♪ んひい♪ お、お、お、お、お、お、お、お、おまんこ汁があ♪ 主様のオス汁欲しさにどんどん溢れてえ♪ やあん♪ あ、主様あ♪ 見ますか？ 私のおまんこお♪」

リーフィ

「主様のおちんぽがパンパンする度にい！ んあ、あ、あああ♪ プシュップシュ吹いちやつてえ♪ 体中が主様に犯される喜びを知つちやつてえ♪ ん、はひい♪ お、お、お、お、お、お、お、お、おまんこがあ♪ ん、はひい♪ おまんこが媚びるんですう♪ おちんぽ媚び媚びダンス踊つちゃつてるんですう♪」

リーフィ

「んああ！ あひ、はああひ、ああひ……やあへ  
おちんぽ膨らんで、グツグツ精子ビビン昇つて  
来てるの分かりますっ！」

リーフィ

「先っぽから、ダラダラえりかなお汁を溢れさせな  
がら、孕ませる氣まんまんの精液昇つてきてる  
の、分かっちゃいますうつ！」

リーフィ

「ん、んああへ あ、あ、あ、ああへ 主様あへ  
キシキシの口つまん！」おちんぽ気持ちよく  
なつてるんですね？」

リーフィ

「こんなあへ ちつちやくへへ 無理矢理広げられ  
れた、おまんこおへ プニアナオナホまん！」おへ  
発情メスエルフおまん！」おへ お下品な姫様お  
まん！」おへ 気に入つてくれてるんですね？」

リーフィ

「んひやあへ あ、あ、あ、ああへ 嬉しいへ  
嬉しいですうへ 主様あへ 私のおまん！」おへ  
持ちよくなつてくれてえへ ん、んああへ お  
まん！」好きになつてくれてえへ んあへ あ、  
ああへ やああへ 喜びで吹いちやう！ おま  
ん！」吹いちやう！」

リーフィ

「ああああ、イグ、す、すみません主様ああ  
、我慢弱いおも、まん」おお、ザコザコお  
まん」おお、イッひや、おしゃり、主  
様より先に、い、ん、んほおおおお、おまん」  
イギモ、おまん」おお、んああ  
ああああ、おまん」おまん」おまん」おまん  
」おおおおおお、」

「んひやーー せ、せ、せひー、んほおおおおおお  
ふ お、お、お、お、ふ おー、お、お、お、お、お、  
ふ お、おーー おおおおふ おまえー」おおふ ん  
んふ やあふ おまえー」腰持ちごーのおおふ  
やあふ 主様ああふ しをー」じれしきふ  
せひべーおーおー」ごんれしき「ひひひひふ

リーフィ

「はあ、はあ……はひい、あ、あ、ああ♪  
ん、はふう♪す、すみません主様あ♪ま  
た勝手におまん♪潮吹きしちや……つてえ  
！……」

リーフィ

「んひやあああ！あ、あ、あ！主様あ！  
あ、んひい！お、お、お、お、お、お、…！お、  
ほおおおお！お、お、お、お、お、お、お、  
おまん♪うめしゅしゃうしゃう♪おまん♪お  
♪、「われりやうう♪初せつぐすじおまん♪壊  
れひやじましゅしゃう♪」

リーフィ

「はひい♪お、お、お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
おましゅしゃう♪おまん♪おまん♪にい、  
♪ 勅起おちんぽおお♪お、お、お、お、お、お、

リーフィ

「む、無理れしゅう♪主様ああ♪腰い♪動  
かないれしゅう♪……つて、はううう…！  
やつー、お、お、お、お、お、お、  
しゃまから腰い♪パンパンんん…やあ♪  
や、り、らめ！うめしゅしゃう♪ええ…！」

リーフィ

「死ぬううう…お、お、お、お、お、  
死んじゅう♪おしゅう♪おしゅう♪…そ、そ、そ、そ、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

リーフィ

「やあああ、おまん！」氣持ちよすぎでバカにな  
りゅう、はひい、お、お、お、お、やあ  
♪ 主様とお、おちんぽの事しか頭にないれ  
しゅう、は、はひい、おおおおおおおおお  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

リーフィ

「あ、主様ああ、ん、はひい、もしゃう、  
どつかあ、もしゃして、ひやい、  
んああ、あ、ああ、おおおおおおお、  
まんこオナホにしながりやあ、口でもお、  
口でも主様とお、一つになりたいれしゃう  
♪」

リーフィ

「んちゅう！ じゅるる、じゅぱぱ！ ん  
ちゅ、れろれろれろれろ、ちゅう！ じゅ  
るる、じゅぱ！ じゅりゅりゅ、じゅ  
ぱぱ！ ん、んちゅうう！ ちゅ、れ、  
れろれろれろれろおお、お、おおお  
♪」

リーフィ

「もひる激ひく、んぱう！ じゅるる、  
じゅるじゅるじゅるじゅる！ じゅりゅ、  
りゅ、じゅぱぱ！ んぱう！ ちゅぱあつ！  
お、お、お、お、お、お、お、ん、ん  
ふう、

リーフィ

「おちんぽお♪ おちんぽいつれえ♪ キツキツお  
まん」れえ♪ プニアナオナホまん」じええ♪  
子園♪ 壊れりゅぐらじい♪ ん、は  
ひいじー おまん」おお♪ 一杯にいい♪ あ、  
ああ♪ おちんぽミルクでいっぱいにしてくだ  
さじいい♪

リーフィ

「んひい♪ ちゅっぷ♪ じゅる♪ じゅるる  
る！ じゅっぷ♪ んちゅ♪ れる♪ れる  
れろれろれろれろお♪ おおおおお♪ き  
しゅうう♪ んちゅ♪ れろれろれろれろれろ  
♪ れろれろれろれろれろれろれろれろおお♪  
お、お、お、お、お、お♪」

リーフィ

「んひい♪ おつほおお♪ おまん」おお♪ お、  
お、お、お♪ んひい♪ ちゅ♪ れろれろれろ  
れろお♪ んああああ♪ やああ♪ おちんぽ来  
ますうう♪ おちんぽ大きくなつてええ♪ ん  
あ、あ、あ、あ、あああ♪ やああ♪ おまん」  
に来ますうう♪」

リーフィ

「私もまたイキましゅうう♪ んあああ♪ あ、  
あああ♪ 主様ああ♪ 主様主様主様主様ああ  
あああ！！」

リーフィ

「一緒にいい♪ ん、んあああ♪ おまん」もおち  
んぽもおお♪ 一緒にイキたいれしゅうう♪  
♪」

リーフィ

リーフイ  
「はひやああああああああああああああああああ！」

リーフィ  
「は、はひい♪ あ、あ'あ'あ'う……はうううう♪  
お、おおお♪ んおおおお♪ おちこぽミル  
クうう♪ んあああ♪ 主様のおお♪ おちんぽ  
ミルク嬉しい♪ 嬉しいですうう♪ んあああ  
♪ 主様あああ♪

「はあ、はあ……あうひら、ひやうひ、あ、  
あうう、はああんまだ出て……んん、ああ  
、ミルクう、んん、ひやう、あつ……子  
宮、赤ちゃんの船屋にぴゅうぴゅう当たつて……  
あああ、これダメれすう、初めてのセックス  
なのにい、絶対癖になっちゃいますう、」

「はああ♪ 種付けセツクスう♪ 幸せすきでえ♪  
おかしくなりまひゅうう♪」

リーフィ 「はーつ……はーつ……あえつ、そつ……うべううう、んいつ、はあ、はあああ……主様あふ、またきしゅううふ」

リーフィ 「んぢゅう……んう、ぢゅう、ぢゅうふふう、ぢゅう、じゅうひつ……ぢゅう、ぢゅう……」

リーフィ 「ちゅう、ちゅう……んむ、好き、しゅきい、ちゅう、ふあ、はあ……んう……主様う、主様あ……」

リーフィ 「はあ、はあ……ん、ふうう……」んなに、私のおまんこで射精していただき、ありがとう」「さいました」

リーフィ 「さすがに主様のおちんぽも疲れて……つて、えへくつふ、おちんぽ……びくびくして、まだまだ元気みたいですね♪」

リーフィ 「」のままでは消化不良でしょうし、私の「」と、もつと愛していただけますでしょうか?」

リーフィ 「はううう、私、とっても嬉しいです♪」

リーフィ 「それではまた体勢を変えて……続きをいたしましょうね♪」

リーフィ 「次は、私が後ろを向きますね……つとと……」

◆トランク4

---

リーフィ	「あうあうう……すみません主様。今のセックス、激しすぎて腰に力が入らないみたいですね……」「壁にもたれ掛かる格好になつてしましましたが、これだと主様にお尻を向けて誘惑してしまつていいみたいですね♪」
リーフィ	「んう、はあ……どうです？ よく見えますか？ さつきまで主様の勃起おちんぽが入つてた、私の口りまんこ♪」
リーフィ	「おまんこ激しく突かれたせいで、クリもビラビラも真っ赤にはれちゃつて♪ ひくひく痙攣しながらおちんぽのおかわり欲しがつてるんですけど♪」
リーフィ	「うう、はうう！？ やあ……おまんこが震えて、主様の精液垂れでますうう……うう、大事な孕ませ汁なのにい……」
リーフィ	「んんっ、んっ……んうう……ダ、ダメですう……おまんこに力を入れても、ポタポタおまんこから垂れてえ……」
リーフィ	「」のまま、おちんぽをおまんこに入れても、大切な子種ミルクがかき出されてしまします……」
リーフィ	「あ！ そうです！ 主様♪ 私の方から次のエッチに聞して♪ 提案があるのですがよろしいですか？」

---

リーフィ

「おまんこには射精したばかりですし、同じ穴を繰り返し犯しては主様も飽きてしまわれると思うのです……あううう♪ とっても恥ずかしいんですけど……私の……ロリエルフの……お尻まんこでキツキツアナルでエッチ、してみませんか?」

「本来であれば、孕むとのできないお尻を犯してもらいうだなんて許される事ではないのですが、そのう……私が主様とつがいになる……全てを捧げる証として、私の全てを味わって欲しい……オマンコだけじゃなくて、お尻も主様の物にして欲しい……」

リーフィ 「私の身体の全ては、主様のものだと証明したいのです……」

リーフィ 「……あ、えっと……べ、別に私が、そちらの穴でのまぐわいに、興味がある訳ではありませんよ? 本当ですよ?」

リーフィ 「ただ、これから毎日子種を注いでもらうとしたら、おまんこだけでなくお尻の穴も使い込まれるどだろうと思つて……」

リーフィ 「だ、だから! 今のうちに、こちらの穴でも主様を受け入れられる身体になりたいんです。」

リーフィ

「もし主様も私のお尻でエッチしたいと思つてくださいるのでしたら、どうか、この逞しいおちんぽで、私の小ぶりで桃のようなお尻も味わつてくださいませ♪」

リーフィ

「さあ主様、よく見てください♪ こうやって……おまんこから垂れる精液をお尻の穴に塗り込んで、……ん、あん♪ ぴっちり閉じたキツキツアナルう……くぱあつて広げてえ……♪」

リーフィ

「ん、んああ♪ あ、あうう♪ お尻の穴に指入れるの、初めてなのにい♪ ひやううう！ ん、んん♪ あうう♪ どんどんぬぷうつて入っちゃいますう♪ ん、あ、あ、あん♪」

リーフィ

「あ、やあ……主様あ、聞かないでください……お尻開いた空氣の音お……お姫様のオナラあ……聞かないでええ……恥ずかしいですう……あうあうう♪」

リーフィ

「はあ、はあ……ん、んん♪ 主様にanal見られて……オナラ聞かれてえ♪ 恥ずかしいのにい……でもどうしようもなく気持ちよくなつてえ♪ analキツキツに締め付けちやうんですけど」

リーフィ

「はあ、主様あ♪ analの皺がきゅつ、きゅつ、てひくひくして、おちんぽ欲しがつてるんですけど♪ 主様の精液塗れのおちんぽお♪ analで綺麗にふき取りたいんですけど」

リーフィ

「主様あ♪ どうかあ♪ どうかこの欲しがリアナルにちんぽ下さい♪ キツキツアナルにい♪ ちんぽ入れて気持ちよくなつてくださいい♪」

「私の身体は、全部、ぜーんぶ！ 主様の精液を搾り取るためのオナホなんですから♪」

「ほり、ほり♪ ちっちゃいおまんこより更にキツ  
キツの、エルフのロリアナル……主様のおちんぽ  
で広げてくださいませえ♪」

リーフィ  
「あつ、はあつ♪ 来ていただけるのですね♪ え  
へへ♪ お尻の入口に主様のおちんぽの熱、感じ  
てします♪」

「はっ、はっ……精液が残ったおちんぽでアナルほ  
ぐされてえ♪ メスのケツ穴広げられてえ♪ こ  
れ、すっごい興奮しちゃいますよお♪」

「んひつ！ くう、うぶうんつ……まだ先端しか  
入つてないのに、お尻が吸い付いて……んあああ  
♪ か、感じちゃいますう！」

リーフィ  
「あっ、あああ♪ はつ……来て、来てます！ お  
尻の穴あ♪ 奥までえ♪ おちんぽ来ます！ 全  
部入りますうう♪」

リーフィ 「はひいい♪ お、お、お、お♪ 主様の、ふつとい、おちんぽきてえ……♪ あう、ひ、ぐ……ふうううん♪」

リーフィ 「お、お、おおお♪ んああ♪ や、やあ……♪ 私、ケダモノみたいな声が、止まりません……♪ …！」

リーフィ 「お尻♪、メリメリ♪で広げられながらあ……下品な声、出ちゃう♪ですう……おほつ、おひ、おおおおお……♪」

リーフィ 「んきり、あひ、あひ……やあ♪ 主様のおちんぽ、カリ首でゾリゾリしてるのは感じますう♪ 感じちゃいますう♪」

リーフィ 「はあ、はあ♪ 主様あ♪ どうか思うがままに腰を振つてください♪ 私のアナルが開きっぱなしになつてしまふくらう、主様のおちんぽの形を教え込んでください♪」

リーフィ 「んおお！ お、お、おおおおおひ……ひ、開くひ、お尻開いちやじますひ、これひ、しゅいひ、お、おほおおおひ……」

リーフィ 「子作りでもなんでもない、気持ちよくなるためだけのセックス！ 私ひ、」れ好きひ、好きですう！」

リーフイ

「あああっ、主様、主様あ！ アナルでこんなに声を上げる下品なエルフで申し訳ありませんっ！ ん、んあっ！ あ、あ、あああ、やああ！」

「で、でも……感じちゃつた、お尻ほじくられて  
感じぬう！ んああ♪ あ、ああああつ、すゞ  
いー しゅ！」これすうつー」

「もつと強くつ、強くして大丈夫ですからあつ！  
私が壊れちゃうまでつ、ケツ穴閉じなくなるくら  
いい！ もつともつとおちんぽくださいいつ！」

「おちんぽ」 いへ おちんぽおへ 主様のおちん  
ぽおおへ さあ、 そ、お、へ、 お、、お、、お、  
、お、お、お、お、へ お、ぢんぽおおへ」「

「えああ♪ しゃれじ♪ ねわんぽれいしゅりり  
♪ アナルセツくしゅ「ハハハ」 ねわんぽおおお  
おちんぽおちんぽおちんぽおちんぽおおおおお  
んあ♪ あ、あ、あ、ああああ♪」

リーフィ  
「主様あ、おちんぽもつとおお、もつとくださ  
いい、メスヒルフのキッキシアナルにい、主  
様のお、おちんぽお、もつとお、もつと欲  
しいんですけど、ん、あ、ああ、あ、あ、  
あ、あああん、」

リーフィ

「ん、は、はひつ…? んはつ! はあ、はあ…  
あ、主様? ビ、ビ! しておやめになられるの  
すか? はああ…ん、やです…今、止めた  
切ないです」

リーフィ

「ふえ? わ、私の淫らな…もつと淫らなおね  
だりが聞きたいのですか?」

リーフィ

「はふうう…主様つたらあ、これ以上下品なおね  
だりだなんて…本当にイジワルで、とっても素  
敵ですうう♪ アナルで感じているだけでもはし  
たないのに、もつと私を辱めようとするだなん  
てえ♪」

リーフィ

「ん、わ、分かりました。もつとえつちにおねだり  
しますから…そうしたら、本当にお尻が壊れ  
しまうくらい…もつともつと強く私の事、虐め  
てくださいね♪」

リーフィ

「では、主様。もつとお顔を寄せてくださいませ

♪

リーフィ

「はあ…はあ…ん、『へつ…ん、はつう…  
…』」

リーフィ

「わ、私は、エルフの姫という高貴な身でありなが  
ら…」

リーフィ 「世継ぎを得るためと言い訳しながら、下品におまんこ汁を垂らして主様のおちんぽを誘惑し、おちんぽひゅつひゅしてもらいました」

リーフィ 「それなのに、また自らのスケベな欲望を満たすため、主様にこんな汚いアナルまで犯してケツマンコにしていただこうとしてしまつてます、う……」

リーフィ 「主様の望むがままに、何度も何度も孕ませてぐださつて構いませんからあ……♪ お口も太ももも、おまんこもアナルもどーでも好きなときに好きな様に使っていいですからあ……♪」

リーフィ 「だから、こんな卑しくて淫らな変態ロリエルフを、主様の立派なおちんぽで躊躇へぐださい♪ 主様のおちんぽでしか一生イケないよう、私の全てに主様の証を刻み付けてください、いっ……！」

リーフィ 「んひいっ…♪ お、お、お、お、お、お、んっ…お、お、ひ、お、ひ、お、お、お、お、お、お、お、お、んっ…♪」

リーフィ 「おちんぽおつ… おちんぽお！ ちんぽおお♪ 入つてきますつ！ お尻の奥にガンガン当たつてますうつ！ ああああああつ…」

リーフィ 「そこつ、す、す”い、いつ！ お尻パンパンされてしまつ！ おまんこにも響いてえ！ アナルなのにい、おまんこ感じますうつ…」

リーフィ

「おほり、おひ、ああ！　おひ、おひ、奥、突かれ  
る度に、おまんこからボビュボビュセーえき漏  
れでる！　大事なセーえき漏れちゃつて  
るう！」

リーフィ

「種付けしても、ひつために出しても、らつた大事な  
せーえきなのにつ、気持ちよくなるために吐き出  
しちゃつてるう！」

リーフィ

「あひ、ああん♪　これは後で、ん、あ、ああん  
♪　またあ♪　おまん！」に射精しても、ひわないと、ですね♪」

リーフィ

「お尻で感じた分つ、もひとつおまん」もイジメても  
らわなきやつ、あああひ、いつそお尻で妊娠出来  
ればいいのに、ああああん♪」

リーフィ

「お尻ひ、感じるひ、ケツ穴感じますつ！　ケツ穴  
に射精しても、らつてつ、ケツ穴孕ませて欲しいで  
すうう！」

リーフィ

「んほおお♪　イイのおお♪　ちんぽおお♪　主様  
のちんぽに夢中になるうう♪　夢中になつひやい  
ましゅううう♪　んほお、お、お、お、お、お♪」

リーフィ

「んほおお♪　イイのおお♪　ちんぽおお♪　主様  
のちんぽに夢中になるうう♪　夢中になつひやい  
ましゅううう♪　んほお、お、お、お、お、お♪」

リーフィ

「んああああ♪ あ、ああああ♪ お、お、お、お♪  
お、お、お、お……♪ ひ、あ、ひ、ひ、  
いん、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
ひ、ひ、ひ、ひ、あ、あ、あ、あ、ひ、ひ、ひ、  
ひ、ひ、ひ、ひ、」

リーフィ

「あああ♪ 主様ああ♪ 私のおお♪ お、お、お、  
お、お、ケツまん♪ おお♪ 広げてぐだひや  
いい♪ 一生開きっぱなしになるぐらいい♪  
ん、ん♪ ああああ♪ ケツ穴閉じなくな  
るくらい♪ ほじほじしてぐだひやいい♪  
主様専用のおお♪ ケツマン口にいい♪ 気持ち  
よくなる為だけの専用まん♪ にしてぐだひや  
いいいい♪

リーフィ

「んほおおおおおおお♪ お、お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
ん、んひいいいい♪ 主様のちんほおおおおお♪  
また大きくなつてえええ♪ あ、あ、あ、  
ああああ♪

リーフィ

「は、は、はひい♪ んあああ♪ 主様ああ♪  
もうイキそうなんれしゅかあ？ もう、ん、  
あああ♪ おちんぽケツ穴でいつちやいもうなん  
ですかああ？」

リーフィ

「ん、あ、あ、あ、やぐ、ふ、う、ふ、う、う  
え、え、え、え、え、え、え、え、え、え、え、え、  
まあ、主様のおちんぽみりゅくう、いっぽい  
出ひでええ、リフィーのケツに主様の証を刻ん  
でくだしゃいい、」

リーフィ

「んほおおおお、お、お、お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、お、」のままあ、孕ませ  
てええ、ケツ穴ああ、ロリのくわじ新品ケ  
ツまんこおおお、清楚なケツにいじじ、  
クのケツにいじ、真っ白なミルクううう、ち  
んぽミルクうう、らしへだひやいい、」

リーフィ

「お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
んほおお、ちんぽちんぽちんぽちんぽち  
んぽちんぽちんぽおおおおおおお、おちんぽ  
様あああああ、」

リーフィ

「イグウ、イギモー、ハハハ、  
ケツ穴でええ、ケツまんこでええ、  
ほおおお、下品にイキましゃううう、  
ちんぽひゅうひゅうでいつひやじましゃうう  
うう、」

リーフィ

「んああ、んん、お、お、お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
お、お、お、」

「ひめう…………あー！ んひいいいいいいい

いいいっ！」

「ねねねね、あね、んせねねね - イ  
ぐうぐ、イシトモシモ - ケツ穴でイ  
ク、イシトモシモ - 」

「えええへ、かへ、はああへー、だ、お、へ、お、  
お、お、お、お、へ、 一 番歎へ、出せれながらああ  
へ、お、お、お、お、へ、イットましゃ、イットちやつ  
じましをいへへへへー」

「主様ああ♪ もつとおひ！ もつとぐだせいや  
せえ！ 私のケツの中あ♪ ケツまん」の中あ♪  
全部主様のせーえきでいっぱいにしてぐだせいや  
ませえええつ！」

「ふう……んあう……あ、ああああああう……あ、あう

「ひつ……んあつ……あ、ああああつ……も、もう  
立つていられないのに……主様あ、腰、  
つかんだままあ……！」

リーフィ

「んにゃああああああっ……！ 絶頂してるとケツ穴  
につ、追い打ち射精っ、されちれてましゅう……  
くううう、んおっ、おおおっ……！」

「ひにゃあ……せ、あああ……限界までイッて  
るのに……主様、まだ出してる……氣持ちよ  
く、んほ、お、お、お、お、お、射精い、  
してくれてしましゅう、んほ、んん、  
ぴゅつぴゅつ、んあああ、嬉し  
いい、んほおお……」

「は、はひいゝ、そんなにへ、そんなに私のケツまんこお、よいのですか？……はいゝ、はいゝ……大丈夫ですから、お好きなだけ出してくださいませえ……ゝ」

「せひゅう、あひ、せひ……へあああ……ん  
ひい、んい、んい……せう……ちんせみりゅ  
くら、出でましゅう……くひ、こ……」

「はーうーうーうーはああーへー、ひーひーひー  
へーんふあーはー、はーはーはああーへー、  
へーんふーへー」

「あ、主様あ……しや！」やがて、どうよお……！」

「なんだか、おまんこに困っても、らつた時より、興奮していらっしゃるよ！」見えますう♪

リーフィ

「あう、あううう……主様との子を孕む為にエツチを始めたはずなのに、これだと私もケツ穴セツクスの虜になってしまいそうです……はううう……

L

「ついで、ふえ？　あ、主様？　もつおまん」とアナ  
ルド2回も射精されたのにまだ「んなにおちんぽ  
勃起させと……お、まだ満足されと、いらっしゃ  
ないのですか？」

「さううう、流石主様です、確実に孕ませる為にまだまだ子種を注ぎ込もうとしてくれるなんて、ううう、とても嬉しいです、」

「はい、私は大丈夫ですから♪ 本日は私が壊れちゃうくらい、いっぱいいっぱいひゅつひゅしてくださいね♪ 主様♪」

◆トラック5

「「ぐな」」沢ヨ……おまえ」からトップアーティストになれで……ベッドに尋れて……、あん、やあ、私のちつちやなお腹がおちんぽミルクでぽつ」、膨らんじやりますよおへ」

リーフイ

「主様あ～～んん～ 今田は本当にありがとうございました」

「…………でも、それと並んで、『アーヴィング』さんでし  
た……」

「なんだか、主様の好意を利用して、子種をいただ  
くどころか、私ばかり気持ちよくなってしまつ  
たみたいで……」

リーフィ  
「ひやうつー？ あ、主様、そんな急に抱きしめた  
りして……ふえええうう……主様あ……そんなに  
強くされると、そのお、嬉しそうで嬉しそうで……  
おまんこがつがいを求めてまた発情しちゃいま  
すう……♪」

「ふえ！？ わ、私とつがいになるのも、望むとこ  
ろだと……はうつ、はうつ！ はうううつ……」

「あの、その！ そう言つていただけるのは、ど  
とつても嬉しいのですが！ 同じくらい、恥ずか  
しくなっちゃいますう……あのよくな醜態ばかり  
見せてしまつておりましたから……」

リーフィ 「それが可愛かつたつて……」「うう、もう！ んもう！ 主様つたらあ♪ 羞恥心で私を殺すおつむりですか♪ ほんとにもう……♪」

リーフィ 「あの、えつと……それで、つがいになつていただけるといふことは、ですね？」

リーフィ 「ええと、これからもヒルフの国のために、私といつぱいエッチしておまんこ犯して膣中出しして……い、いつぱい孕ませてください、といふ」とですよね……？」

リーフィ 「ふあああ♪ 主様、嬉しいです♪」

リーフィ 「こんなに激しくてエッチで、とつても気持ちいいセックスがこれから毎日出来るなんて、ああんもう！ 今から考えるだけでもまた興奮してきちゃいます♪♪」

リーフィ 「主様、好きです、大好きです♪ これから先何があつても主様と離れませんから♪」

リーフィ 「そしてエルフ族の存続の為にも、いつぱい孕ませエッチして、私たちの可愛い赤ちゃんを作るんです♪」

リーフィ 「ですから、どうか今後も、ヒルフの姫である私、リーフィと、未来の赤ちゃん共々よろしくお願ひいたしますね、主様♪」

- 
- 
- ◆トラック7：おまけ 左耳舐めループ
  - ◆トラック8：おまけ 右耳舐めループ
  - ◆トラック9：おまけ 両耳舐めループ
  - ◆トラック10：おまけ おちんぽ淫語塗れの右耳舐めループ
  - ◆トラック11：おまけ おまんこ淫語塗れの左耳舐めループ
  - ◆トラック12：おまけ おちんぽおまんこ淫語塗れの両耳舐めループ
  - ◆トラック13：おまけ 主様しゅきしゅき両耳舐め3WAYループ
  - ◆トラック14：おまけ 主様しゅきしゅき淫語両耳舐め3WAYループ
-